

国語科学習指導案

庄原市立板橋小学校 田中 ひとみ

1. 日 時 平成19年12月10日(月)～19日(水)
2. 場 所 5年教室
3. 学 年 第5学年 男子5名 女子4名 計9名
4. 単元名 「事象と意見を区別して書こう」 ～意見文に挑戦しよう～
5. 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領国語の「書くこと」の指導事項エ「事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。」を踏まえて設定したものである。二つの意見文を読み比べ、事象と意見について理解し、事象と意見を区別して意見文を書く構成になっており、特に、「事象と意見を区別して書く力」を付けたいと考える。「事象と意見を区別して書く力」を、力1「事象を客観的に書くことができる。」と、力2「事象と意見との関係をとらえて書くことができる。」ととらえて指導を行う。

○ 意見文を書く学習において「事象と意見を区別して書く力」についてのアンケートを行った結果、児童の意識の実態は次の通りである。力1「事象を客観的に書く力」について9名中5名が肯定的に回答した。力2「事象と意見との関係をとらえて書く力」について9名中6名が肯定的に回答した。また、事前作文における総事象を分析した結果、おおむね満足しているB評価以上の事象は、力1が61%、力2が28%であった。

これらのことから、事象と意見を区別して書くことに対する意識は半数以上の児童が持っているが、力は不十分であるという実態が分かった。

○ 指導に当たっては、始めに、事象と意見が区別して書かれている意見文と、事象と意見が入り混じり事象と意見に関係付ける文がない意見文を提示し、「事象と意見を区別して書く」ということは、力1「事象を客観的に書くこと」と力2「事象と意見の関係をとらえて書くこと」であることを理解させる。

次に、書いていく過程の中で何度か友達同士の双方向の意見交流を取り入れる。そのことで、児童は書き手と読み手の立場になり、考えを深めていくことができる。そして、友達の意見を生かし、「事象と意見を区別して書く」ことを意識して、自分の意見文を書き直すことができる。また、書き直した意見文についても、双方向で読み合い意見交流を行わせたり、自分の書いた始めの意見文と読み比べさせたりする。そうすることで、児童は、自分の力の伸びを実感することができる。

6. 単元の目標

- 意見文に関心を持ち進んで意見文を書こうとする。 【関心・意欲・態度】
- ◎ 事象と意見について理解し、事象と意見を区別して書く。 【B書くことエ】
- 事象と意見の書き分け方について理解する。 【言語事項オ（ア）】

7. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
・ 意見文に関心を持ち、進んで意見文を書こうとしている。	・ 事象を客観的に書いている。 ・ 事象と意見の関係をとらえて書いている。	・ 事象と意見の書き分け方について理解している。

8. 単元の指導計画（全5時間）

次	時	学習内容	評 価			
			関	書	言	評価規準【評価方法】
第一次	1	1 事象と意見の定義をする。 事象とは、実際に起こった事柄のこと 意見とは、自分の考えのこと 2 二つの意見文を読み、事象と意見を区別して書くときのポイントを学習する。 ○ AかBのどちらが相手を納得させる文か読み比べる。 ○ Aと比べて、Bのどこがいいのか、事象や意見の書き方を参考にして考える。 ・ 事象を客観的に書いてある。 ・ 事象と意見をつなぐ文が書いてある。			◎	・ 事象とは、出来事・事柄・様子であり、主観を入れずに書くことを理解している。【発言】 ・ 意見とは、ある事に対する考えや主張であるとすることを理解している。【発言】 ・ 事象と意見の書き分け方について理解している。【ワークシート・振り返り】
	2	1 「レジ袋をなくすべきだ」に賛成か反対の立場になり、意見文を書くために構想メモを作る。(事象二つ) ○ 意見に関係する事象になっているかどうか考える。 2 メモから文章にする練習をする。 3 構想メモを基に意見文を書く。		◎		・ 構成メモに、意見に関係のある事象を書いている。【ワークシート・振り返り】 ・ 賛成か反対かの立場で構想メモを作り、意見文を書いている。【ワークシート・振り返り】
第二次	1	1 同じ立場の友達と意見交流を行う。 ○ 友達の意見文を読み、交流の視点に沿って、気付いたことを付箋に書く。 交流の視点 ・ 意見に関係のある事象を、意見を入れずに客観的に書いているか。 ・ 事象と意見を関係付ける文を書いているか。 ・ ほかに考えられる事象はないか。 2 意見交流を基にして、付け加えたり部分的に書き直したりする。		◎		・ 同じ立場の友達と意見交流をして始めの意見文より客観的な事象や、意見に関係のある事象を書き加えたり、書き直したりしている。【ワークシート・振り返り】
	2	1 違う立場の友達と意見交流を行う。 ○ 友達の意見文を読み、交流の視点に沿って、気付いたことを付箋に書く。 交流の視点 ・ 意見に関係のある事象を、意見を入れずに客観的に書いているか。 ・ 事象と意見を関係付ける文を書いているか。 ・ 相手の意見に対して、納得できるか。 2 意見交流を基にして、付け加えたり部分的に書き直したりする。【本時】		◎		・ 違う立場の友達と意見交流をしてこれまでの意見文より、客観的な事象や、意見に関係のある事象を書き加えたり、書き直したりしている。【ワークシート・振り返り】
第三次	1	1 意見交流をして付け加えたり書き直したりしたものを参考に、再度、意見文を書く。 2 書いた意見文を友達同士で読み合い納得した部分を伝える。 3 始めに書いた自分の意見文と比べ、意見文の書き方(事象と意見を区別して書くこと)についてまとめる。	○	◎		・ 友達の意見を聞き、意見文のポイントに沿って、納得したことをワークシートに書いている。【ワークシート】 ・ 事象と意見を区別して書くことについて、自分自身の変容を感じている。【振り返り】

9. 本時の目標（4／5）

- ◎ 違う立場の友達と意見文を読み合い、交流の視点に沿って意見交流をし、これまでの意見文より客観的で意見に関係する事象を書く。

10. 本時の観点別評価規準

- ◎ 違う立場の友達と意見文を読み合い、交流の視点に沿って意見交流をし、これまでの意見文より客観的な事象や、意見に関係のある事象を書き加えたり、書き直したりしている。

11. 本時の展開

学習活動	指導上の留意事項	評価規準 【評価の方法】
1. 前時の復習 ・付箋に書いてあることを読み、書き加えたり書き直したりする。	・前時に書いたものに、教師側の気付きを付けて返す。	違う立場の友達と意見文を読み合い、交流の視点に沿って意見交流をし、これまでの意見文より客観的な事象や、意見に関係のある事象を書き加えたり、書き直したりしている。 【ワークシート・振り返り】
ちがう意見の友達と意見交流をし、意見を入れず、だれにでも分かる事象・意見に関係のある事象になるように書こう。		
3. 違う立場のグループで、意見交流をする。 ①互いの意見文を読む。 ②交流の視点を知る。	・反対の立場のペアを作っておく。 ・相手の意見に納得できるかどうか考えて、交流の視点に沿って読ませる。	
○ 意見に関係のある事象を、意見を入れずに客観的に書いているか。 ○ 事象と意見を関係付ける文を書いているか。 ○ 相手の意見に対して、納得できるか。		
③気づきを付箋に書く。 （よいと思うこと…ピンク、直したらよいと思うこと・質問したいこと…イエロー） ④付箋を基に意見交流する。 （予想される付箋の内容） ○ 文末表現が工夫してあるので、強く思っていることがよく分かる。 ○ 資源を大切にしないといけないというのは分かるが、どのくらいの資源を使うのか。 ○ 事象と意見が合っていない。事象はいつもしていること、例えば「店で買い物をするとレジ袋をもらう。」から始めたらいいよ。	・書いていないことでも後から気付いたことがあれば意見交流の場に出させる。	
4. 友達との意見交流を基にして、書き加えたり書き直したりする。その後、もう一度友達と読み合う。	・意見交流した友達の意見文を読み、始めの文章より納得できるようになったかどうか確認させる。	
5. 振り返りをする。	・友達の意見を聞いて、どう書けばいい	

○違う立場の友達と意見交流して、分かったことや気付いたことを残そう。 6. 次時の予告をする。 ○次の時間は、友達の意見を参考にし、違う立場の人にも納得してもらえそうな意見文を書こう。	いか,何を書けばいいか分かったことを書かせる。	
---	--------------------------------	--